

—短 報—

## ツシマフトギス樹液を舐める

境 良朗

ツシマフトギス *Paratlanticus tsushimensis* Yamasaki, 1986 は対馬固有の大型のキリギリスである。島内の平地から山地に至るまで広範囲に生息している。環境省のレッドリストによると、1991年版で「希少種」、2000年版・2007年版で「準絶滅危惧種」として扱われていたが、第4次リストで削除（ランク外）された。成虫の食性は雑食性で、直翅類昆虫やミミズ、カエルの死骸などを食べることが観察されている。今回、クヌギの樹液を舐める（吸汁）様子を観察しているので、生態的知見として報告する。

1) 1♂, 11-VIII-2017, 対馬市厳原町内山 11:10 (天気: 晴れ 気温: 29.1℃) (写真1・2)



写真1



写真2

♂の個体がカナブンやヨツボシケシキスイとともにクヌギの樹液に来ていた。雑食性なので樹液に来ている昆虫類を狙っているのかと思ったが、よく見ると樹液を舐めていた。クヌギの幹を徘徊する別個体の1♂も見た。

2) 1♀, 18-VIII-2017, 対馬市厳原町内山 10:30 (天気: 晴れ 気温: 29.4℃) (写真3・4)



写真3



写真4

クヌギの樹液を舐めながら移動する♀がいた。（参考動画：YouTube 検索「ツシマフトギス 吸汁」）

♂♀ともに吸汁を確認することができた。幼生期ではこの吸汁行動は未観察である。今までこの時期に樹液を見て回ることがなく、気づかなかった可能性も高いことを考えると、成虫では比較的普通に行われている行動かもしれない。なお、同様の吸汁はヤブキリでも観察している。

最後に、2017年までは島内全域にごく普通に見られていた本種だが、2018年は一転して激減してしまった。これまで大きな個体数変動もなく安定して発生していたのだが原因は不明である。このような状態が数年続けば、レッドリスト再指定も検討しなければならない。長崎県においても令和3年度のレッドリスト改訂に向けて検討がなされていると聞かすが、どのような取り扱いになるのであろうか。